

「釧路湿原自然再生協議会」

第 13 回 湿原再生小委員会

資 料

平成 25 年 12 月 2 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 13 回 湿原再生小委員会 －

日時：平成 25 年 12 月 2 日（月） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第一会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会

2. 議 事

1) 幌呂地区湿原再生

昨年度の事業実施箇所の状況報告と今年度の実施内容について

2) 達古武湖自然再生

今年度調査等と南部湿地対策工事の概要について

3. その他

・連絡事項等

4. 閉 会

----- 配 付 資 料 -----

・ 第 13 回湿原再生小委員会資料

・ 出席者名簿

・ 座席図

・ 幌呂地区湿原再生について

・ 達古武湖自然再生について

・ 釧路湿原自然再生全体構想の見直しについて

・ 第 12 回湿原再生小委員会ニュースレター

釧路湿原自然再生協議会
湿原再生小委員会 委員名簿

計：48名

■個人(21名)

(敬称略、五十音順)

| No | 氏名 | 所属 |
|------|-------|---|
| 1 | 植村 滋 | 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター |
| ※ 2 | 加藤ゆき恵 | 釧路市立博物館 |
| 3 | 金子 正美 | 酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授 |
| 4 | 亀山 哲 | 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員 |
| 5 | 神田 房行 | 北海道教育大学 教授 |
| 6 | 木村 勲 | |
| 7 | 櫻井 一隆 | |
| 8 | 清水 信彦 | |
| 9 | 新庄 興 | |
| 10 | 新庄 久志 | 釧路国際ウエットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター) |
| 11 | 杉澤 拓男 | |
| 12 | 杉山 伸一 | 環境カウンセラー(市民部門) |
| ※ 13 | 竹中 康進 | 環境省羽幌自然保護官事務所 |
| 14 | 中村 隆俊 | 東京農業大学 生物産業学部 講師 |
| 15 | 中村 太士 | 北海道大学大学院 農学研究院 教授 |
| ※ 16 | 野本 和宏 | 釧路市立博物館 |
| 17 | 松本 文雄 | |
| 18 | 三上 英敏 | 北海道環境科学研究センター 環境保全部水質環境科 |
| 19 | 矢部 和夫 | 札幌市立大学 教授 |
| 20 | 山田 浩之 | 北海道大学大学院 農学研究院 講師 |
| 21 | 若菜 勇 | 阿寒湖畔エコミュージアムセンター マリモ研究室 |

■団体(18名)

(敬称略、五十音順)

| No | 団体/機関名 | 代表者名 |
|----|---------------------------------|----------------|
| 1 | 釧路川カヌーネットワーク | 会長 小川 清史 |
| 2 | 釧路国際ウエットランドセンター | 理事長 蝦名 大也 |
| 3 | 釧路自然保護協会 | 会長 神田 房行 |
| 4 | 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 | 代表幹事 鈴木 久枝 |
| 5 | 釧路湿原国立公園連絡協議会 | 会長 蝦名 大也 |
| 6 | 公益財団法人 日本生態系協会 | 会長 池谷 奉文 |
| 7 | 公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ | チーフレンジャー 有田 茂生 |
| 8 | 公益財団法人 北海道環境財団 | 理事長 小林 三樹 |
| 9 | さっぽろ自然調査館 | 代表 渡辺 修 |
| 10 | 鶴居排水路維持管理組合 | 組合長 瀬川 勝巳 |
| 11 | 塘路ネイチャーセンター | センター長 鷺見 祐将 |
| 12 | 特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 | 理事長 赤松 里香 |
| 13 | 特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会 | 理事長 杉山 伸一 |
| 14 | 特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ | 理事長 百瀬 邦和 |
| 15 | 特定非営利活動法人 トラストサルン釧路 | 理事長 黒澤 信道 |
| 16 | 北海道標茶高等学校 | 校長 西田 丈夫 |
| 17 | 北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会 | 会長 テディ 齋藤 |
| 18 | ボランティアネットワークチャレンジ隊 | 代表 佐竹 直子 |

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

| No | 団体/機関名 | 代表者名 |
|----|------------|---------------|
| 1 | 標茶町農業協同組合 | 代表理事組合長 高取 剛 |
| 2 | 釧路丹頂農業協同組合 | 代表理事組合長 瀧澤 義一 |
| 3 | 鶴居村商工会 | 会長 大津 泰則 |

■関係行政機関(6機関)

(敬称略)

| No | 団体/機関名 | 代表者名 |
|----|----------------------|----------|
| 1 | 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 | 部長 石田 悦一 |
| 2 | 環境省 釧路自然環境事務所 | 所長 西山 理行 |
| 3 | 釧路市 | 市長 蝦名 大也 |
| 4 | 釧路町 | 町長 佐藤 廣高 |
| 5 | 標茶町 | 町長 池田 裕二 |
| 6 | 鶴居村 | 村長 大石 正行 |

※第6期(後期)新規登録委員

湿原再生小委員会の検討経過

| | 議事 |
|----------------------|--|
| 第 1 回 H16. 2. 17 | 1) 全体構想と小委員会との関わりについて 2) これまでの調査・検討経緯について (1) 広里地区湿原再生について (2) 幌呂川地区湿原再生について (3) 雪裡樋門湛水試験について 3) 今後の調査・検討方針について |
| 第 2 回 H16. 6. 25 | 1) 平成 15 年度の調査・検討成果について 2) 平成 16 年度以降の調査・検討方針について 3) 全体構想との関わりについて |
| 第 3 回 H17. 5. 11 | 1) 小委員長選出について 2) H16 年度調査検討結果と H17 年度調査検討計画について (1) 釧路湿原の面積について (2) 釧路湿原全域動植物調査の概要 (3) 広里地区 (4) 幌呂川地区 (5) 関連する農業整備事業について (6) 雪裡樋門地区 |
| 第 4 回 H20. 3. 3 | 1) 幌呂地区の変遷と現状 2) 幌呂地区で生じた現象と課題 3) 幌呂地区の湿原再生目標の設定 4) 広里地区の湿原再生 |
| 第 5 回 H21. 3. 18 | 1) 幌呂地区の湿原再生目標の概要 2) 幌呂地区 平成 20 年度の調査結果 3) 平成 21 年度の予定 |
| 第 6 回 H22. 9. 2 | 1) 幌呂地区湿原再生について 2) 広里地区湿原再生について 3) 釧路湿原の面積について 4) 5 年目の施策の点検について |
| 第 7 回 H23. 1. 19 | 1) 幌呂地区現地植生回復試験について 2) 幌呂地区湿原再生について 3) 5 年目の施策の振り返りについて |
| 第 8 回 H23. 4. 27 | 1) 幌呂地区現地植生回復試験について 2) 幌呂地区湿原再生のリファレンスサイトについて |
| 第 9 回 H23. 10. 20 | 1) 幌呂地区湿原再生（基本方針）について 2) 幌呂地区湿原再生（実施方針）について 3) モニタリング計画について 4) 広里地区自然再生について （旧農地区域の湿原への再生、ハンノキ林の取扱いの検討） 5) 釧路湿原の面積について |
| 第 10 回 H24. 1. 18 | 1) 幌呂地区湿原再生実施計画（案）について 2) 達古武湖における自然再生の取り組みについて 3) 釧路湿原の面積について |
| 第 11 回 H24. 11. 8 | 1) 幌呂地区湿原再生における今年度の実施予定等について 2) 達古武湖自然再生事業実施計画（案）について 3) 広里地区湿原再生事業実施計画の策定について |
| 第 12 回 H25. 1. 24 | 1) 幌呂地区湿原再生における未利用排水路の埋め戻しについて 2) 達古武湖自然再生事業実施計画（案）について 3) 広里地区自然再生における今年度調査実施状況について |

第 12 回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）

| 項目 | 発言概要 | 回答および今後の検討方針（案） | 備考 |
|---------------------------------|--|---|----|
| 未利用排水路の埋め戻しにおける 幌呂地区湿原再生における | ・ 切り下げた土の表層だけを埋め戻すというのであれば、まだそれなりに丁寧な仕事であるが、深いところのリン濃度の高いところも埋め戻しに使うのか。 | ・ 切り下げ深さは、大体 30cm から 50cm くらいで表層部分になる。埋め戻すのはその部分である | |
| | ・ 栄養分の高い土は埋め戻しに使わない等の明確な指針を考えて欲しい | ・ 土壌調査を継続して実施し、小委員会に調査結果の報告を行い、栄養塩類濃度が高い土の影響があると考えられる場合には今後検討する | |
| | ・ 切り下げで出る土の栄養塩濃度のモニタリングを行いながら、特にリン濃度に着目しながら、濃度によって埋め戻しに利用するかどうかを検討する方向でよいか | ・ 濃度の高いところがあるので、そこはまた周辺土壌を随時複数地点で調査を行い、検討しながら方向を定めていく | |
| | ・ かつて事業地周辺では、多くの水生生物や流域の魚類も生息しタンチョウにとっては良い採餌場であったが、今回、排水路を埋め戻すことにより、幌呂川の一部を復元させて、自然水路を形成することはできないか | ・ 今後事業を進めていく過程で生息しているタンチョウや、飛来するタンチョウの採餌場や生息場所についても配慮し、小委員会で協議しながら進めて参りたい | |
| 達古武湖自然再生実施計画（案） について | ・ 湖沼に入ってくる栄養塩類の総量が問題であり濃度を議論しても意味がない。あえて濃度で比較する意味は何か | ・ 今回は負荷と濃度が同義に近いと判断し濃度で測定することとした | |
| | ・ 上流域の面原負荷を抑えないと状況の先送りとなる。具体的な対策が必要ではないか | ・ 南部湿地に栄養塩が大量に溜まったのは法規制前の特殊事情であり、また全体の栄養塩類負荷量の推定 2 割(リン)を有するので、本地域の対策を行うことがまず重要である。面原負荷低減対策については、様々な情報を収集して今後対応していきたい | |
| | ・ 一地点で評価するとあるが、どうやってモニタリングをしていくのか説明されたい | ・ 上流域の対策と南部湿地の対策を評価するため、モニタリング地点は南部湿地で 3 地点、リファレンスサイトで 1 地点の計 4 地点を設定している | |
| | ・ 水質がどの程度改善したかの数値目標を示してほしい | ・ 水質面で数値目標を設定することは現時点では難しい。水生植物の回復状況を指標としたい | |
| | ・ ヒシを全域で刈り取った際のリンの総量を計算しているが、リンが溜まっている底泥をさらわないのはなぜか | ・ 底泥をさらうことによる、湖沼内の植生に与えるインパクトを考え採用しなかった。 | |
| | ・ 今回の小委員会の検討議論を経て次回の協議会に提案したい（承認） | | |
| 今年度調査実施状況における 広里地区自然再生における | ・ 旧農地の通水シミュレーションをされているが、旧河川をどのような行為を伴って変化を見越しているか教えて欲しい | ・ 今までは、旧雪裡川の嵩上げや地盤の掘り下げなどを検討してきた。現在は遮水壁を河岸に設置し、高水位を保ちながら、水位変動を抑える方法を検討中である | |
| | ・ ハンノキ林の拡大の要因は湿原火災によるものと推定されるとあるが、これは水位の低下、ph の変化があつて、最後にトリガーとして火災があつたという認識で良いか | ・ そのとおりである。 ・ ハンノキに関してはある程度調査が進んでいる。次回以降の小委員会でどのようにするかということが改めて提案される | |